

「40年超」巡り県議会全協

安全対策や必要性 関電や国が説明



国のエネルギー政策を説明する資源エネルギー庁の小沢典明地域政策統括調整官（左から2人目）＝19日、県議会全員協議会室で

関西電力が運転開始から四十年超の延長運転を目指す美浜原発3号機（美浜町）と高浜原発1、2号機（高浜町）について、県議会は十九日、全員協議会を開き、再稼働の是非を巡る本格的な質疑に入った。初日は関電と国から安全対策や必要性の説明を受けた。終了後、畑孝幸議長は次の段階に進むため、二十一日に杉本達治知事の出席を求めて二度目の全協を開くと表明。県議会の判断が一步近づいた。＝関連②面

全協では、関電と資源エネルギー庁、内閣府、原子力規制庁が安全対策の状況や原子力政策の方向性を報告。畑議長は報道陣に「私

としてはある程度説明を受けたという認識だ」と述べ、関電や国の態度を評価した。会は休憩を挟んで八時間半に及んだ。

最大会派「県会自民党」の仲倉典克会長は「充実した会だった」と評価。二十一日の全協では、再稼働に対する「会派の考えを明らかにし知事に確認する」と述べた。第二会派「民主・みらい」の辻一憲会長は「技術面、安全面への不安、避難計画の課題が浮き彫りになった」と総括した。二十一日は県に安全面などの問題を指摘する。二十一日の全協は午後

に、県会自民党、民主・みらい、共産党、公明党、無所属議員の会派別に知事との一問一答を繰り広げる。各会派が事実上の意思表示を行うと見られる。二十二日に開かれる県議会臨時会で、再稼働の反対や慎重な議論を求める請願の審査を行う。（今井智文、浅井貴司、山本洋児）

に、共産党、公明党、無所属議員の会派別に知事との一問一答を繰り広げる。各会派が事実上の意思表示を行うと見られる。二十二日に開かれる県議会臨時会で、再稼働の反対や慎重な議論を求める請願の審査を行う。（今井智文、浅井貴司、山本洋児）